

# 文化財は静かに語る

文化財と聞いて、何を思うだろうか。  
貴重な資料。歴史的資料。後世に残し伝えなければならぬもの。  
時代遅れのもの。古臭いもの。生きるために必要のないもの。

現代は永遠に現代ではなく、私たちはいつか「過去」になる。過去に生きた人々の現代を我々は「歴史」と呼んでいる。

「賢者は歴史に学ぶ」と誰かが言った。  
我々の祖先である人類が積み重ねた過去は、決して意味のないものではなく、その積み重ねた過去「歴史」の上に我々の今「現在」がある。

歴史とは現在と過去との対話である

*an unending dialogue between the present and the past.*

イギリスの歴史学者E. H. カーの有名な一節である。

我々が歴史を語る時、どこか遠い異世界の出来事であるかのような錯覚にみまわれることがある。しかし、その歴史を積み重ねてきたのは、過去に、その土地に、その時代に、懸命に生きた一人ひとりの人間である。それゆえに、歴史は一樣ではなく、時代の大きな流れに身を置きながらも、時代々々、土地々々、それぞれに、そこに生きた人々が紡いだ個性がある。

歴史資料・考古資料・史跡・・・、文化財は、ただ静かにそこに在り、ひとりでに語るわけではない。

現代を生きる我々が、過去と向き合い、興味をもって歴史資料・考古資料と相対するとき、

そのとき、物言わぬ文化財は、静かに語り始める。

宇摩向山古墳1号石室内部

Seeing is believing.



博物館からのお知らせ

ミニ銅鐸鑄造体験  
ができます

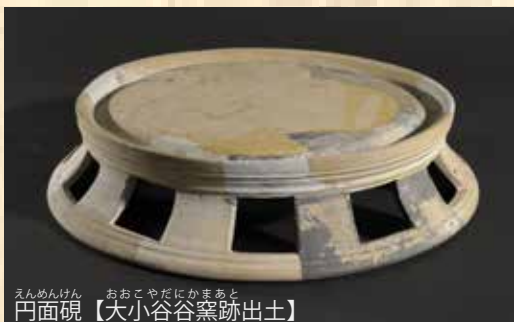
体験費用：1,500円  
所要時間：1時間程度  
※準備の都合がありますので  
希望日に体験できるか事前  
にお問い合わせください



ひやくぶんはいっけんにしかず  
百聞不如一見!



涅槃図【五智院所蔵】



えんめんけん おおそやだにかまあと  
円面硯【大小谷窯跡出土】



やくようき  
川之江村役用記



どうたく  
銅鐸【上分西遺跡出土】

四国中央市歴史考古博物館

Museum of History and Archaeology at Shikokuchuo City

開館!

- 高原ミュージアム -



7月9日(木)、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のために開館を延期していた「四国中央市歴史考古博物館」(高松市)の開館記念式典が開催されました。  
「四国中央市歴史考古博物館」(高原ミュージアム)は、既存の「かわのえ高原ふるさと館」を改修・増築し、「考古資料館」の機能を統合することで、本市の歴史・文化を学び発信する拠点施設として、また学校教育との更なる連携を深めた教育施設として整備されました。  
式典では、篠原市長が関係者への感謝の意を込めたあいさつを行った後、博物館の前施設「かわのえ高原ふるさと館」を旧川之江市に寄贈したユニ・チャーム株式会社の高原豪久代表取締役社長執行役員が祝辞を披露しました。高原社長は祝辞の中で「後世にしっかりと資料を残すこと、丁寧に情報を発信すること、教育の場として積極的に活用していただくこと、これらの3本柱がしっかりと立った施設になったと思います。ぜひ多くの方にご来館いただき、実物が持つパワーを感じていただきたいと思います」と話しました。

特別展示 経ヶ岡と四ツ手山

経ヶ岡古墳と四ツ手山古墳は、昭和57(1982)年 四国縦貫自動車道・三島川之江インターチェンジ建設に伴い、愛媛県埋蔵文化財調査センターによって発掘調査が行われた。  
経ヶ岡古墳は、調査により、全長30mの前方後円墳であることが明らかになった。経ヶ岡古墳の出土遺物は、金銅装の馬具や装飾品、鉄製武具など多岐にわたっており、四ツ手山古墳の水晶製首飾りや、形象埴輪などと併せて、宇摩地域では稀有な資料も多い。



馬具 (f字鏡板付轡)【経ヶ岡古墳出土】



水晶製首飾り【四ツ手山古墳出土】



期間限定公開 「馬評」銘須恵器

※ 原品は8月末までの限定公開です(レプリカに変更予定)



「ホンモノ」にであえる場所  
いつも新しい発見がある博物館



開館時間...9:00~17:00 (最終入館 16:30)  
休館日...毎週月曜・祝日の翌日・年末年始

TEL 28-6260 (ファクス兼) 入館無料

四国中央市歴史考古博物館  
Museum of History and Archaeology at Shikokuchuo City

- 高原ミュージアム -



テーマ別展示

開館記念特別展示